

関西福祉大学

# 校友会会報

Kansai University of Social Welfare

関西福祉大学校友会

平成18年5月1日



看護学部棟正面玄関



## 目次 CONTENTS

会長・副会長あいさつ 卒業式・入学式	2
看護学部紹介	3
大学時代の思い出 6期生	4
部・サークル紹介	5
校友ネットワーク	6・7
平成18年度役員紹介	8
校友会ニュース	9
校友会緊急奨学金給付規程 校友会個人情報保護方針	10
投稿「私と仕事」	11
キャンパスニュース	12



平成18年4月1日に看護学部を開設しました。(関連記事P.3)



荒木美智雄(学長)

新緑の候、関西福祉大学校友会会員の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。このたび、関西福祉大学学長並びに第四代目校友会会長に就任いたしました。

本年は、開学十周年という記念すべき節目に当たり、開学以来の社会福祉学部に加えて、新たに看護学部が設立され、二学部体制となりました。校友会の皆様温かいご支援に深く感謝申し上げます。

社会福祉学も看護学も広く深く捉えれば、文明社会が生み出す、人間の「苦悩」や「痛み」など、ネガティブな問題と真正面から向き合い、それらと取り組み乗り越えていくとする学問的・教育的・社会的「企て」です。それは、世界で重要になっていく人間についての実践的な「知」の獲得を意味しているのです。本学が開学以来その願いの中心に持ち続けてきた、人間の普遍的な助かりを希求してやまない精神の新たな展開といえます。

現在、校友会正会員(卒業生)総数は一、五二七名、準会員(在学生)は一、二八〇名(内社会福祉学部一、一九三名、看護学部八七名)となりました。開学十周年を迎えて、私たちは喜びに満ちて、このようにたくさんの若者とともに根源的な実践的「知」の獲得に向けて新しく出発しようとしています。

校友会は、十周年記念事業の二環として、校友会館の建設事業に取り組んでいます。校友会館を新しい創造の場所として大いに活用し、校友会の皆様との絆を強め、校友会発展に努めたいと思います。共に校友会活動を盛んにして「こうではありませんか。それが大学の発展につながり、優れた後輩を育てる力となるに違いありません。

皆様より一層のご活躍を祈念いたしますとともに、今後とも母校発展へのご支援をよろしくお願いいたします。

第六回

平成十七年度卒業式

平成十八年三月二十三日(木)、ハーモニホールにおいて、関西福祉大学第六回卒業式が挙行されました。卒業を認められた社会福祉学部社会福祉学科の二二二名がそれぞれ呼名を受け、卒業証書と学位記を授与されました。また、優秀な成績を上げた卒業生が表彰されました。

- 中野素良(最優秀賞) 徳留和美(優秀賞) 龍波由佳(優秀賞)
- 龍波由佳以下三十七名(高校教諭一種免許状(福祉)取得者、紹介)
- 吹奏楽部(理事長賞) 点訳サークル(八つ波賞)
- メンタルフレンド「ひまわり」(八つ波賞)

卒業生を代表して中野素良さんは、「大学の講義は言つに及ばず、友人たちと共に悩み、競った体験を通して信頼やチームワークを体感できました。この四年間は人生の宝です。」と、感謝の言葉を述べました。



藤田正樹(一期生)

関西福祉大学開学十周年、おめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。

思いおこせば十年前、一期生として赤穂に足を踏み入れたときは、まだ大学周辺の道路は舗装されておらず、周りは田んぼだらけでした。「これからどんな生活が待っているのだろう」と期待と不安をいっばい持ちながら入学したことを覚えています。十年の間に、赤穂市も大学も急速な成長を遂げました。今年度からは看護学部も開設され、元気がいっばいの学生の方でキャンパスもいっそう賑わうことでしょう。

同窓生の皆様、お元気でしょうか。卒業後のさまざまな環境で活躍のことと思います。先日、大阪で仲の良い同級生数名が集まる機会がありました。久しぶりに会う仲間と過ごす時間は、大学時代のこと、そして今の仕事のことなどで盛り上がり、話はつきませんでした。本当に楽しいひと時を過ごせたと感じています。この秋には開学十周年を記念し、盛大な催しを開催する予定です。

是非その場で久しぶりに皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

最後になりましたが、関西福祉大学のさらなる発展と皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

第十回

平成十八年度入学式

平成十八年四月五日(水)、ハーモニホールにおいて、関西福祉大学第十回入学式が挙行されました。第十期社会福祉学部社会福祉学科の入学生二七四名、編入生四名、看護学部看護学科の入学生八七名計二六五名がそれぞれ呼名され、荒木学長から入学を許可されました。

入学生を代表して社会福祉学部の福水彩子さんは、「今日の新鮮な気持ち忘れず、自分の夢をしっかりと見据えて一歩一歩、確実に歩んで成長し続けたいです。」と力強い宣誓をしました。



## 実習室

3つの実習室には、それぞれ講義スペースが隣接し、講義と演習が機能的に行われるシステムになっています。



### 第1実習室

看護学の基礎技術を学ぶ実習室。ベッドを配置し、実際の看護に必要な器具・設備などにより医療現場さながらの環境で技術を習得します。



### 第2実習室

地域看護・在宅看護などを学ぶ実習室。障害者用設備を備えた住居モデルや救急・急性期医療に対応した、高度な看護技術を習得するための救急蘇生器具なども備えています。



### 第3実習室

母性・小児看護の基礎的な技術を学ぶ実習室。産科で用いられている特殊なベッドや保育器などを備え、妊婦・分娩・産後の看護技術を習得します。

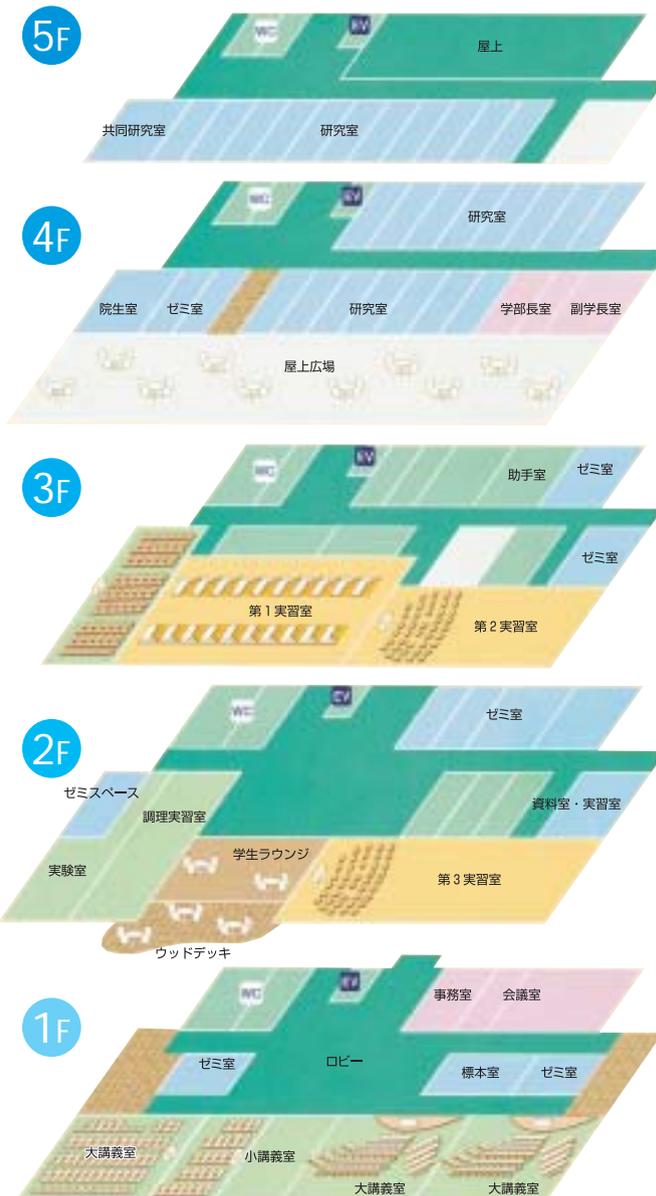


### 大講義室

教壇を半円形に囲んで立体的に座席配置された講義室。スクリーン3台を設置し、映像を使用したわかりやすい授業を受けることができます。

## 看護学部紹介

平成18年4月1日より看護学部を開設しました。看護学部棟のフロアを紹介いたします。



# 大学時代の思い出

この春卒業した第6期生みなさんに、大学時代の思い出を語っていただきました。



矢山 修 さん  
(6期生)

アースサポート株式会社

## 大学祭一色の四年間、 リーダーの経験

私にとって大学生活四年間の中で大学祭はとて大きな存在でした。

大学祭実行委員は一、二年次生を中心に春の汐桜祭、秋の汐風祭の企画立案、準備、運営を行うもので、私も一年次生の頃から所属していました。

一年次生の頃は、実行委員会に所属したことにより、先輩や同級生との交友関係も広がりました。また、何よりも自分たちの手で一から大学祭をつくり上げるという何事にも変えられない達成感を得ることができました。

二年次生のときには、実行委員長を務めさせてもらいました。一年次生までは先輩に助けられながら成し遂げてきたことを今度は自分自身が同級生、後輩、すべての実行委員を引っ張っていく立場になり、そのプレッシャーに押しつぶされそうになりました。そういったときに助けになってくれたのが友人たちでした。

大学生活の中で実行委員会に所属することにより、何よりもかけがえのない友人を得ることができました。そして、責任感をもち、一つのことをやり遂げる達成感、皆をまとめるリーダーシップ。私が実行委員会に入り、学び得たことは本当に数えきれません。大学祭を通じて出会えた多くの人に感謝しています。

私にとって大学での四年間は大学祭一色といっても過言ではありません。大学祭で得た経験、仲間は本当に一生の宝物だと思います。

四月から社会人になります。学生時代と違い、辛いこともたくさんあり、壁にぶつかっていくと思います。しかし、そこで挫けるのではなく、学生生活で学んだ多くのことを活かしながら成長していきたいと思います。



藤岡 高志 さん  
(6期生)

社会福祉法人千ヶ峰会  
特別養護老人ホーム  
ヘルシーピラ加美 介護職

## ゼミの思い出 共に学び共に成長

高校生の時から憧れていた大学、関西福祉大学での四年間は私にとって忘れられない素晴らしい思い出です。たくさんの方々と出会い、また、多くの先生方にお世話になり本当に楽しい大学生活を送ることができました。

大学では友人たちと社会福祉を学ぶと共に、入学当初より取得したかった高等学校教諭一種免許状のために様々な授業を受けてきました。その中で最も印象に残っているのは、友人たちと共に学んだゼミでの活動です。

ゼミでは、先生方の助言のもと、ゼミの仲間とともに調査や実践を通して自らの観察力・分析力を高め、問題意識を展開することができました。自分が調べたことや考えたこと、また、友人たちの調べたことや考えたことをゼミの中で意見を交わし合い勉強してきました。二年次生、三年次生の時に、友人たちや先生方と一緒にゼミの研究報告をまとめ、報告会に向けてみんなで頑張ったことは今でも忘れられません。一つのことをみんなで力を合わせて成功させることは本当にすばらしいことだと改めて感じました。

私の大学生活で得た一番の宝物は、たくさんの方々の友人たちです。遊びに行ったり、飲み会をしたり、旅行に行ったり、友人たちと過ごした四年間は私にとって最高の思い出です。関西福祉大学は、私が高校生の時に憧れていた大学以上に素晴らしい大学でした。

四月から社会人になります。四年間の大学生活で得たこと、学んだことなどを活かして、就職先や、これからの福祉社会に貢献できるように一生懸命頑張りたいと思います。



開道 恵美 さん  
(6期生)

社会福祉法人紫陽会  
あじさいホーム 介護職

## 二度の全国大会出場、 一つのことを続けた 達成感と自信

私の関西福祉大学での大学生活は剣道部に所属し、あつという間の四年間でした。全日本女子学生剣道大会出場への目標に向け、みんなで一生懸命に取り組んできました。そこで大切な友人たちにも出会うことができました。

私はこの大学で、一緒にがんばり共に汗を流した仲間に出会えたからこそ、四年間がんばることができました。その結果、一年次生、三年次生の時にみんなの夢であった、全日本女子学生剣道大会へ出場することができたのだと思います。あの時の感動は今でもはつと辛くて覚えていません。練習が厳しく辛くて、剣道が嫌になったことが何度もあります。しかし、今振り返ると、あの時妥協して辞めていなくて良かったと心から思っています。一つのことをここまで続けられたという、達成感と自信があります。ここまで剣道を続けてきたからこそ、今の自分があるのだと思います。剣道は私自身をすごく成長させてくれたと思います。剣道を通して出会った全ての人達に感謝しています。

今年から社会人となり、福祉の現場で働く者の一人として、今まで続けてきた剣道で経験したこと学んだこと、忍耐力や持久力、そして精神的にも強く鍛えられてきたことを大いに活かしてがんばっていきたくて考えています。

# 部・サークル紹介

先輩、がんばっています



## 硬式野球部 目標は3部優勝・2部昇格

主将 和田 健太郎さん(4年次生)

私たち関西福祉大学硬式野球部は、発足して以来、「3部優勝・2部昇格」という目標を長年にわたって引き継いできましたが、残念ながらまだその目標を達成していません。現在、部員数は22人と少なくなりましたが、今年こそはと意気込みながら、週5日の練習に励んでいます。

自分たちが野球を続けられるのは、大学や、球場を無料で貸していただける地域の方などたくさんの方々のお陰であることを実感し、日々感謝の気持ちでいっぱいです。その感謝の気持ちをもって、OBの方たちが続けてこられた、地域ボランティアも継続しています。

野球の技術面の鍛錬だけでなく、人に対して感謝する心を大切にすることも、野球部のモットーとして、人間的な成長を目指していきたいと思っています。これからも日々精進していきますので、応援よろしくをお願いします。

## 手話サークル“ にじ ”活動と交流の場を広げて

吉田 真衣さん(3年次生)

私たち手話サークル“ にじ ”は、定例の活動日を毎週月曜日と金曜日とし、1年を通して様々な活動をしています。昨年度にはサークル名に“ にじ ”という名前を加えました。

“ にじ ”とは、「ろう者と健聴者、先輩と後輩の間に架け橋を」という意味をこめてつけられたものです。サークル員、ろう者が、手話を身につけるため単語や文章を勉強したり、ビデオを使つての読み取り練習をしています。また、手話を使ったゲームを通して、基本的なことから少しレベルの高い勉強と幅広く楽しみながら勉強しています。定例の活動以外では、入学式・卒業式・大学祭の手話通訳から始まり、手話講座、夏合宿、クリスマス会、地域の小学生を対象とした手話教室を開くなど、大学内にとどまることなく地域へも活動の場を広げています。

手話講座では、赤穂ろうあ協会から講師をお招きし、新入生だけでなく私たちが様々なことを学ぶことができました。さらに、昨年度の大学祭では、毎日夜中まで練習し大変でしたが、ステージの上で通訳することができ、とても良い経験になりました。

また、ろう者の生活、文化、歴史なども勉強することで、お互いの違いを理解し、一緒に知識、技術を高めています。先輩方の築いていただいたものの上に私たちらしさを乗せて次の世代へつなげていければと思います。今年度は他大学との交流も盛んになり、いろいろな所に“ にじ ”がかかっています。



スポーツ大会にて

# 校長ネットワーク



高岡 大地 さん  
(1期生)  
赤穂自動車教習所  
技能検定員

## 指導員として 夫、父親として

関西福祉大学を卒業してから、この春で六年目を迎えようとしています。

私は現在、赤穂自動車教習所で技能検定員兼、教習指導員として働いています。

また、関西福祉大学体育会剣道部の学外指導者として大学生と共に汗を流しています。

教習所に就職してから私が一番にしなればならなかったことは、普通自動車の教習指導員資格を取得することでした。道路交通法六法全書とにらめっこしながら猛勉強をする日々が一年間続きました。大学時代は剣道ばかりで、勉強に関しては正直怠けた生活を送っていたので、入社当初は休んでいた脳細胞を蘇らせるのに必死になりました。

無事資格も取得し、技能教習、学科教習をスタートさせ直面したことは、「人に教える事の難しさ」でした。教習生一人一人の運転適正と性格を把握し、その一人一人に合った教習方法、言葉遣いを選び短時間で明確な指導をすることで何度も頭を打ちました。

「なるほど」と人に納得してもらうにはかなりの努力が必要であると思います。そのためには広くて深い知識と豊富な経験を携えておくことは勿論ですが、日頃から己を啓発し勉強して研鑽を続けていかなければならないということを学びました。

現在では大型自動車、普通自動車二輪車の指導資格と普通自動車の技能検定員資格も取得し、教習業務だけでなく修了検定、卒業検定にも携わっています。また、普通自動車二輪車の検定員資格取得のために只今勉強の真っ最中です。

これからも誇りを持ち、もっともっと自分を磨いて、人との繋がりを大切にして頑張っていきたいです。

追伸、一児の父親になりました。良き夫、父親となるよう家族のためにも頑張ります。



池田 修一 さん  
(1期生)  
社会福祉法人こころの家族  
デイサービス故郷の家・神戸  
生活相談員

## ソーシャルワーカーの誇り

関西福祉大学を卒業して、五年の月日が経ちました。私は卒業後、特別養護老人ホームで三年間介護職を経験後、デイサービス部門の相談員として働いています。今年五月でちょうど六年目を迎えることとなります。

私の役割は、主に個別プログラムの計画・実施や通所介護計画を基に、ご家族と利用者様の相談を受け、ソーシャルワーカーの介入をすることです。

私には介護職の時も、相談職の今も変わらない視点があります。それは、「利用者様との相互作用を大切にすること」です。つまり、私たちソーシャルワーカーは「利用者様に育てられている」という視点です。私が仕事に悩んだとき、いつも相談にのってくださった利用者様がおられました。その方は、在日韓国人の方で文字や言葉もわからない日本で、仕事と夜間学校を両立しながら、同じような在日韓国人の方の日本語学習の市民団体を立ち上げ、活動された過去を持つ方でした。仕事のノウハウは先輩職員から学べますが、本当の精神的な強さや、人間性の学びの恩師は、利用者様でした。

もっ今は亡くなられましたが、その利用者様の「助けになりたい」と思っていた気持ちを今、目の前にいる利用者様たちに向けている日々です。その利用者様の生き方に習い、仕事をしながら、元関西福祉大学学部長のスン・レイ・プー教授の指導を受け、大学院にて、ソーシャルワークの学びを続けています。人を支援することの重みを感じつつ、ソーシャルワーカーとしての誇りを持って、仕事をしていきます。



大西 愛さん

(3期生)

医療法人尚生会  
アネックス湊川ホスピタル  
精神保健福祉士

## 未熟さ、無力さの 自覚を超えて

私はおよそ一年半前に、特別養護老人ホームでの介護職から精神保健福祉士として転職しました。当院は認知症専門の病院で、私は「重度認知症患者デイケア」の担当をしています。業務としてはデイケアの参加を希望される方の受診相談や案内、ご家族やご本人様との相談面接、他サービス機関との調整などを行っています。

前の職場とは業務内容などは違いますが、認知症の方と多く接するという点では共通しています。さらにご家族の方々と接する機会が多くなり、「認知症を抱えながらも生活を営む生活者」としての視点を改めて見つめ直すことができたように思います。

また、介護経験も一年半という短い期間でしたが、例えばその人のADLを自分の中でより理解しやすかったりと、短いながらも得たものは私にとって大きいと思います。

精神保健福祉士として私にできる事とは何か自問自答する日々だったり、自分の未熟さや無力さを痛感することばかりですが、きつとどんな経験でも無駄になることはなく、その経験が今後の私自身を形作っていくと思えます。そう考えると当たり前のことですが、一日一日がとても大切であるという気持ちを忘れることなく、ご家族やご本人、そして自分自身ともきちんと向き合っていければと思っています。



三木 茂樹さん

(4期生)

株式会社ケアショップニシキ  
姫路店

## 「営業」の魅力

関西福祉大学を卒業して、はや二年が過ぎました。在学時から営業という仕事をしようと考えていました。そして現在、高齢者、身体障害者福祉用具仕入販売・住宅の増改築等を行う会社に勤務しています。入社当初は大学生活とのギャップに戸惑い慣れない毎日でした。しかし、気がつくとも毎日充実しています。

なぜ私が営業という仕事を選んだのかというと、単純ですが様々な人と話をするのが好きだからです。毎日一人でも多くの人と話をして、自分という存在を知ってもらいたいのです。営業をしているとそれが実現できます。

基本的には高齢者の方々と話をするのですから、かなり勉強になります。高齢者の方々はどのような考えをもっているのか、また何を望んでいるのかなど相手の立場になって物事を考えられるようになります。

困っている方は、何でも相談してきます。私が受け持っている仕事の範囲内では収まりません。相談はすべて応用問題です。私は必ず親身になって考え、できることは最大限してきました。解決した利用者様から一言「ありがと」という言葉を頂くと最高の気分になります。

最近、よく利用者様から近所の方を紹介して頂きます。話を聞くと、私が一生懸命するということを通して話してくれています。

営業という仕事はそんなに難しいことではありません。自分という存在を知ってもらい、相談すれば必ず何とかしてくれるということさえ相手に伝われば、人から人へ自然と伝わるものです。これからはもっと多くの方と信頼関係を築き上げていきたいと考えています。



岩井 友見さん

(4期生)

国富胃腸病院 地域連携室  
医療ソーシャルワーカー

## 理想の人、 目標の人を目指して

私は姫路市にある国富胃腸病院で医療ソーシャルワーカーとして勤務しています。業務内容は、入院相談、退院相談が主ですが、他にボランティアの募集・受け入れや見学案内などもしています。

就職したばかりの頃は、医療スタッフの話す専門用語に慣れず、福祉職としての業務役割を必死に学び、様々な専門職の方に支えていただきながら取り組んでいました。就職して一年が過ぎ、やっと自分なりの方法を考え、実行することができてきたと思います。

日々、業務を行う中で、関西福祉大学卒業生のソーシャルワーカーと連絡をとることもあり、大学の和を感じ、実際、研修などの場でお会いして、とても励まされています。福祉職に限らず、尊敬できる人の存在というのは大切で、自分がこうありたいと願う理想、目標に向かって努力しようとする姿勢が身につきました。

また、社会福祉士としての信念を忘れないように、出動中には、国家試験に合格し、資格を取得した時の喜びや専門職としての責任感を思い出すようにしています。それは、様々な専門職がいる中で、福祉専門職としての倫理綱領や役割を忘れず、成長していく姿勢を忘れないためです。医療保険制度、介護保険制度が大きく変わろうとしている今、資格取得後も、知識を柔軟に切り替え、吸収できる器の必要性をとても感じています。

こうした日々の中で、大学時代の友人とは、会ったり、メールをしたりしています。卒業して三年たっても、変わらず私を励ましてくれて、何でも言い合える友人は、とても有難い存在で、いつも元気をもらっています。

関西福祉大学での四年間は短いですが、勉強に部活動に学友会に色々なことに挑戦して、有意義に過ごして頂きたいと思いません。



## 平成17年度 校友会総会が開催されました

平成17年10月30日(日)関西福祉大学118教室において平成17年度校友会総会が開催され次の議題について、審議承認されました。

- (1) 平成16年度事業報告
- (2) 平成16年度収支決算報告
- (3) 平成16年度収支決算監査報告
- (4) 平成17年度事業計画
- (5) 平成17年度収支補正予算
- (6) 事業計画プロジェクトの報告
  - 1) 校友会館建設計画
  - 2) 校友会緊急奨学金給付規程
  - 3) 開学10周年記念事業(大学、教育後援会、校友会共催)
- (7) 新役員紹介及び役員改選結果報告



## 第2回

## ホームカミングデーを 開催しました!!

校友会では、昨年度好評だったホームカミングデーを汐風祭に合わせ開催し、平成17年10月29日、30日の2日間で約170名の卒業生が母校を訪れました。恒例の写真撮影や関福饅頭の配付のほか、今回は校友会会員専用の喫茶コーナーを設けドリンクサービスを行いました。参加した卒業生の皆さんは母校の現状に触れて、懐かしさと驚きを感じていました。

次回汐風祭日程(予定)

平成18年

10月28日(土)・29日(日)



## 計報

5期生 石田和也さんをご逝去されました。  
謹んでご冥福をお祈りします。



理事(2期生)  
松本 崇

## 開学十周年を迎えて

(事業計画プロジェクトの主旨の立場から)

卒業からはや四年の月日が経ちました。相変わらず仕事を中心として慌ただしく毎日が過ぎようとする時、

ふと大学生活の出来事を思い出します。母校で過ごした全ての日々はよき思い出であり、大切な宝物であり、母校は私たち卒業生の心のよりどころとなっています。そのブランドデザインを担うプロジェクトの主旨という大役を、しかも、このような重要な節目に仰せ仕り、大変光栄でありながらも同時に身が引き締まる思いです。

本会の目的は「母校の発展の援助」による「社会への寄与」です。私たちは、後輩たちが貴重な人生経験を学ぶ場として、より良質な教育を受け、幅広い体験をすることのできる環境創りの継続こそが第一の使命であり、母校が母校であるために、五十年、百年という長期的視点でデザインし続けなければならないと確信しています。

第二に、「私たちの教養の向上」という目的の達成にあたっては、卒業生のフォローアップ、就労継続支援、意見交換会や研修等をおこなうことのできる歴史の蓄積と創造することができる場、つまり「継続性のある卒業生の拠点創り」が必要です。本プロジェクトは拠点を「校友会館」に求め、現在、その建設を中心に、ホームカミングデー、十周年記念事業の計画等について活発な議論を進めています。

校友会は私たち卒業生全員が主役です。私たちの英知を結集し、参画いただいたことを願ってやみません。共に、歴史を創造しましょう。  
母校の発展、社会貢献への願いをこめて。

## 校友会館 建設計画



校友会理事会・幹事会および事業計画プロジェクトにおいて、卒業生の拠点造りとして、校友会館の建設の議論を重ね、計画を進めてきました。いよいよ4月末より工事の準備に取り掛かる運びとなりました。  
校友会館については次号に掲載させていただきます。

平成十八年四月一日より関西福祉大学校友会  
緊急奨学金を開設・運営することとなりました。

## 関西福祉大学校友会 緊急奨学金給付規程(抜粋)

- (主目)  
第一条 この規程は、関西福祉大学校友会則第三条及び第四条の規定に則り、在学生の修学と学生生活の向上を図り、母校の発展に寄与することを主目とする。
- (目的)  
第二条 この規程は、本学の四年次の学生で、卒業する能力と勉学の意欲を持ちながら、家計の急変や災害などにより学費の支弁に支障を来し、困難な状況に立ち至った学生に対し緊急に奨学金を給付し、修学の継続と学業の成就を支援することを目的とする。
- (資格)  
第四条 校友会奨学金の給付を受けることができる者は、本学の四年次の学生で、本人の学費を主として負担している者の死亡、病取、失業及び事業の倒産等により家計が急変し、又は本人あるいは本人の学費を主として負担している者が地震、風水害などの災害を被り若しくは不慮の事故に遭遇する等により、卒業を控えて緊急に経済的支援が必要であると認められる者とする。
- (募集及び採用)  
第五条 校友会奨学金は各学期の期初に募集する。ただし、緊急に支援を必要とする場合は当該学期を通して随時申請を受け付ける。
- 一 学生からの応募があったときは、三担当教員等関係教員及び学生委員会の審査を経て、校友会会長が採用を決定する。
- 二 採用は学期ごとに行うが、前期に採用された者が後期に引き続き申請した場合、再度採用されることを妨げない。
- 四 校友会会長は、校友会奨学金の採用を決定したときは、速やかに理事會、幹事會に報告する。
- (給付額)  
第六条 校友会奨学金の給付額は採用した学期の授業料の不足額に相当する額とする。
- (特別な運用)  
第七条 本学の四年次の学生で、第四条に例示した事態に準する緊急な事態が生じた場合、又は不測の事態により応募があったときは、校友会会長は、第四条、第五条及び第六条の規定にかかわらず、校友会奨学金の資格並びに募集及び採用、校友会奨学金の給付額について、特別な運用を図ることができ、ただし、特別な運用は予算の範囲内とし、特別な運用を図ったときは、速やかに理事會、幹事會に報告するものとする。
- (出願)  
第八条 校友会奨学金の給付を希望する者は、所定の校友会奨学金願書に必要書類を添えて、授業課まで提出しなければならない。
- (併用給付の不可)  
第九条 関西福祉大学授業料減免規程に規定する減免との併用は認めない。
- (事務の所掌)  
第十二条 この規程に関する事務は、授業課が所掌する。ただし、給付に関する事項は、総務課が所掌する。
- (施行細則)  
第十三条 この規程に定めるもののほか、校友会奨学金の給付に関し必要な事項は、別に定める。
- (規程の改廃)  
第十四条 この規程の改廃は、学生委員会及び校友会理事會、幹事會の議を経て、校友会会長が行う。
- 附 則  
この規程は、平成十八年四月一日から施行する。

平成十八年三月十九日開催の理事會・幹事會において  
関西福祉大学校友会個人情報保護方針が承認されました。

## 個人情報保護方針の策定について(案)

関西福祉大学校友会は、会員相互の親睦、扶助を図り、教育の向上に努めることにも、母校の発展を援助し、社会に寄与することを会の目的とし、会報及び会員名簿の発行、会員の懇親・交流、講演会・研究会等の開催、母校の発展に寄与する事業、種々の社会奉仕の事業などの諸事業を行っています。

個人情報の取扱いに關しましては、本会創設平成十三年(以下、卒業年)この会員名簿の作成に際して、個人情報の保護に留意した様式の原稿用紙を会員の皆様にお渡した等、校友会の皆様方の個人情報は慎重に扱ってまいりましたが、個人情報保護に關する法律が全面施行されたこともあり、校友会といたしましても、個人情報保護方針及び個人情報保護規程を定め、一層適切な管理に努めたいといたしました。

なお、本会の保護方針及び保護規程は次の一～三を前提としています。

- 一 本会の保護方針保護規程の内容及び運用は、大学の運営及び諸事業の実施に必要な範囲内で、利用目的を特定して使用します。
- 二 個人情報とは、会員以外の個人保護者、保証人、専任以外の教職員、大学・校友会関係者等に關する情報であつて個人が識別されるものも含まれる。
- 三 会員等の個人情報は、大学と共同利用することがある。

## 個人情報保護方針(案)

- 一 個人情報の適正な取得と利用目的の特定  
本会は、個人情報保護法が公平な手段によつて取得し、会の運営及び諸事業の実施に必要な範囲内で、利用目的を特定して使用します。
  - 二 利用目的の通知と公表  
本会は、個人情報取得に当たっては、利用目的をあらかじめ、ホームページ、校友会会報等に公表し、又は個人情報の取得後速やかに本人に通知又は公表します。
  - 三 個人情報の利用目的  
本会の運営、諸事業の実施に際し、次の(一)～(六)の目的のために個人情報を利用します。これらの目的以外に利用することはありません。
  - (一) 本会業務上の通知、連絡等。
  - (二) 本会及び大学の諸事業、諸行事、各種サービス等の案内、情報提供等。
  - (三) 本部における会務、各種会議、母校支援、在学生支援、奨学金給付、就職活動支援等。
  - (四) 支店、個別校友会等の諸活動、交流、交流会、職種、職域研究、交流等に対する支援。
  - (五) 会報、名簿の発行、アンケートの実施、広報資料等の作成、送付、ホームページの作成、更新、個人情報の更新。
  - (六) 本会と大学との情報交換等。
- 四 第三者提供の制限  
本会は、個人情報の第三者への提供が利用目的と一致し、あらかじめ定められている場合、あるいは法令に照く場合を除き、本人の同意なしでこれを第三者に提供することはありません。
- 五 共同利用  
本会が大学と共同して利用することがある個人データの項目は次のとおりです。
- (一) 正会員・準会員の「氏名、生年月日、性別、学籍番、住所、電話番号、メールアドレス」出身高校、入学年月、卒業年月、三担当教員、部サークル、勤務先、その他の連絡先。
- (二) 特別会員の場合「氏名、生年月日、性別、住所、電話番号、メールアドレス、最終学歴、着任年月、退職年月、職階、担当科目、課役職、本学退職後の勤務先、その他の連絡先」。
- 六 安全管理措置  
(一) 本会(個人)データの漏えい、滅失又はき損防止、漏えい等(個人情報の)防止の他の安全管理措置を講じます。
- (二) 個人データの取扱いを外部に委託する場合には、委託先を厳正に選定し、安全管理が確実に行われるよう監督します。
- 七 保有個人データに関する開示、訂正等  
本会は、保有個人データについて、法の趣旨に従つて会員等本人から開示、訂正、追加又は削除、利用の停止又は消去等の申し出を受け付けます。これらの申し出に対しては、申出者が会員等本人であることを確認した上で定められた手続きに従い、速滞なく対処します。
- 八 法令等の遵守  
本会は、個人情報の保護に關する法令その他の諸規範を遵守します。
- 九 個人情報に関するお問い合わせ  
本会が保有する個人情報に関するお問い合わせは、【お問い合わせ先】までお申し出ください。
- 十 附 則  
この保護方針は平成十八年四月一日より施行します。

## 【お問い合わせ先】

関西福祉大学校友会事務局  
〒六七〇-〇五五 兵庫県赤穂市新田三八〇 三  
TEL:079-1(四六・二八四七直)  
FAX:079-1(四六・二六一五直)  
E-mail: kyuuka@kwsu.ac.jp

## 用語の解説

- 保護方針において次に掲げる用語は以下の意味を有するものとする。
- (一)「個人情報」生存する個人に關する情報であつて、当該情報に含まれる氏名、生年月日その他の記述等により特定の個人を識別することができるもの(他の情報と容易に照合することができ、それにより特定の個人を識別することができる)と、同様のことがいえるものをいふ。
- (二)「個人データ」個人情報データベース等を構成する個人情報をいふ。
- (三)「個人情報データベース等」個人情報を含む情報の集合物であつて、特定の個人情報や電子計算機を用いて検索することができるように体系的に構成したものをいふ。
- (四)「個人データの取扱い」個人データの作成、入力、入力、訂正、追加又は削除、利用の停止、消去及び第三者提供の停止を行う権限を有する個人データをいふ。
- (五)「個人個人情報」個人を識別される特定の個人をいふ。
- (六)「会員等」等とは、保護者、保証人、専任以外の教職員、大学・校友会関係者などをいふ。

# 私と仕事



原田 尚徳(2期生)  
社会福祉法人 瀬戸内福祉事業会  
特別養護老人ホーム グリーンピア瀬戸内



本永 幹(2期生)  
株式会社生活科学運営  
戦略本部 人事部 取締役 人事部長

目標は赤穂で学んだ「地域の重要性」  
「人と人との繋がり大切さ」を  
活かした住まいづくりを展開すること

関西福祉大学を卒業後、私は東京にある株式会社生活科学運営へ入社しました。有料老人ホームを企画・運営を主とする会社ですが、「住まい方」「地域コミュニティ」にこだわりをもつ当社に魅力を感じ、上京してからはや四年が経過しようとしています。

入社後はハウス当社では施設のことをハウスと呼びます。この研修を経験後、本社配属となり社長秘書を約二年経験しました。その後、人事部へ異動となり現在は採用活動、人員計画の作成、スタッフ研修の立案・実施などを主に行っています。

入社直後から幸運にも社長秘書という役割を担わせていただいたことにより、理念の強い社長の考えや仕事の進め方などを直接学ぶことができ、コミュニケーションには欠かせない「連携」の重要性を身をもって体験することができました。また、他社の重役の

方とお話をさせていただく機会も多かったため、ビジネスマナーや業界にとらわれない知識を身につけられ現在の仕事にも役立っています。

平成十七年度には経営交代という大きな方向転換を迎えました。私が秘書をしていた社長から、新卒入社六年目である三十歳の社員へ社長を引き継ぐという大胆なものです。ご承知の通り有料老人ホーム業界は大手企業の参入により競争が激化しています。その中を勝ち抜いていくためには、若い力とスピードが必要である」という決断から、経営陣にも若手を登用するという方針のもと、私も取締役 人事部長 という役職をいただき、新しいスタートを切ることとなりました。

これまでの経験から当社での人事業務は把握していましたが、部長という役割を担うことの難さを今は強く

わたしにとって仕事とは「一期一会」

私は、特別養護老人ホーム「グリーンピア瀬戸内」で介護の仕事をしていました。ここに入って辛いことも、楽しいことも、そしてやりがいも、たくさん気持ち都在这里交錯しています。

施設で勤務を始めて利用者様を担当することになりました。そして数ヶ月が過ぎたころ私にとって初めての利用者様の死がやってきました。担当の利用者様の死でした。私がここに入った以来最も辛い仕事だと痛感した時でした。今までにたくさんご利用者様が亡くなられています。その度に、辛い思いをしなくてはなりません。しかし、先輩から次のように教えていただきました。「確かにこの仕事に死は必ずついてまわることだけれども、その亡くなられた利用者様にもっとあげられれば良かったことなどをしっかりと胸に刻むことで、次に担当になる利用者様に全力を注ぐことに繋がる。」この言葉を胸に頑張っています。

私は、あいさつをすることが、仕事を

く実感しています。社長からは、権力は行使しないと意味がない」という言葉を毎日聞かされています。「若いから」、経験がないから」と今の立場では何の言い訳にもなりません。自分の決断ひとつで会社の方向が変わるほどの影響力が自分にあることを実感し、六百名のスタッフが働く環境を今よりもっと良くするために何ができるかを日々考えています。

当社では今後、有料老人ホームだけでなく、新しい住まい方の提案を積極的に行っていきたく考えています。赤穂という土地で学んだ、地域の重要性」都會にはない、人と人との繋がりの大切さ」これらを活かした住まいづくりの実践を、大きな視野で展開できれば、私の入社時の目標が達成できると考えています。

会社に入ってから、本当に色々な方とお会いし、勉強をさせていただいています。どんな人からも必ず得るものはあります。今後もたくさんの方と出会い、自分を常に成長させていきたいと思います。

対応しています。なぜなら、もし私がナスコールを押すのであれば、それは何もただ用事があるだけでなく、その人の顔がみたいという理由があると考えるからです。常に相手の立場に立つて仕事はしていかなければなりません。何も仕事だけでなく、すべてにおいて、相手の立場に立つことは必要なことだと思っています。

この仕事に就いて、本当にたくさんの方と出会い、別れを経験しました。その度に、様々なことを学んできました。職場にも様々な職員がいて、考え方の違いも激しい言葉もたくさん聞かれ、この職場を辞めてしまおうと、何度か思いましたが、その度に思い出すのが、一人ひとりの利用者様との出会いでした。一期一会、私の好きな言葉ですが、まさにここにいる利用者様一人ひとりとのお出会い、そして最期まで繋がっていたいという思いが強くなります。

私にとって仕事とは、「一期一会」まさに「人と人との繋がり」であると思っています。

